

硬化済み含浸剤の耐溶剤性

1. 目的：有機汎用含浸剤 PS-403E の硬化後の耐溶剤性を重量変化と硬度で比較する。
2. 試験：各種含浸剤を短冊状（厚さ 3mm×幅 17mm）に形成したアルミチューブ内に注入し湯中（90℃×10min）で加熱硬化させた硬化物を、長さ約 40mm に切り試験片とする。
3. 条件：試験片を各液に漬け、7日間常温で放置する。
 - ①自然乾燥
 - ②オーブン（100℃×1hr）で乾燥

$$\text{重量変化率} = (100\%) \times (\text{初期重量} - \text{測定重量}) / \text{測定重量}$$

4. 結果一覧表

項目	重量変化率(7日後) [wt%]	初期硬度 [ショア-D]	7日後硬度 [ショア-D]
耐ガソリン性	① 0.46 ② 0.45	80	83
耐溶剤性 トルエン40% ベンゼン40% キシレン20%	① 0.33 ② 0.31	80	82
耐酸性: H ₂ SO ₄ (0.1N/pH1)	0	80	80
耐アルカリ性: NaOH (0.1N/pH13)	0	80	80

※耐ガソリン性と耐溶剤性の2項目の重量変化については、①自然乾燥と、
②加熱乾燥を比較しました。